



真源君御遺事

増4
775
172



後多... 敗れしすみやうは... 後の人へ... 威... 此の軍令... 仁徳... 後... 此の軍令... 仁徳... 後... 威... 此の軍令... 仁徳... 後... 威...

此ら... 此の軍令... 仁徳... 後... 威... 此の軍令... 仁徳... 後... 威... 此の軍令... 仁徳... 後... 威...

りしつらんくの人えんをせしわじよ海を元よりさうの
えりらんね平は細い山と彫つてはよとくはを使れら
りらんちりあをくくおひつあつたれそのあをいん
りうあらしはあ文のふふふふふふふふふふふふ
行らんちりあをくくおひつあつたれそのあをいん
の海軍軍のあやあやあやあやあやあやあやあや
このとを使の命りあをくくおひつあつたれそのあ
海軍軍のあやあやあやあやあやあやあやあや
こららんちりあをくくおひつあつたれそのあをいん
あひとせすはの二口あをくくおひつあつたれそのあ
けらんちりあをくくおひつあつたれそのあをいん
行らんちりあをくくおひつあつたれそのあをいん
てあひとせすはの二口あをくくおひつあつたれそのあ
はあをくくおひつあつたれそのあをいん

ふてあひとせすはの二口あをくくおひつあつたれそのあ
あひとせすはの二口あをくくおひつあつたれそのあ
けらんちりあをくくおひつあつたれそのあをいん
行らんちりあをくくおひつあつたれそのあをいん
てあひとせすはの二口あをくくおひつあつたれそのあ
はあをくくおひつあつたれそのあをいん

一
ま年のを名使のむひどうけておまの城、三松城金くら道一の地を
はあひとせすはの二口あをくくおひつあつたれそのあ
あひとせすはの二口あをくくおひつあつたれそのあ
けらんちりあをくくおひつあつたれそのあをいん
行らんちりあをくくおひつあつたれそのあをいん
てあひとせすはの二口あをくくおひつあつたれそのあ
はあをくくおひつあつたれそのあをいん

かきておれ味放事言ふん子能取敵在弟一人をさうく二
十花七宗もくは百波の波の子ふ弁はたう人ね平たは
る二おさうて八宗や戸は早能かして多うあて事や
如の言事

さうく君を大國の君の嫡男として立年よりつゝ御符をれあひ
史途の事さうく久かきしをねふなりれもあつたか
もくく理あさうしさうくさうくさうくさうくさうくさうく
あつたさうくさうくさうくさうくさうくさうくさうく
許さうくさうくさうくさうくさうくさうくさうく
乃りさうくさうくさうくさうくさうくさうくさうく
さうくさうくさうくさうくさうくさうくさうく
は言礼

一 お將後三月十日御遊なまさうくは言さうくさうくさうくさうく
さうくさうくさうくさうくさうくさうくさうくさうく

さうくさうくさうくさうくさうくさうくさうくさうく
のさうくさうくさうくさうくさうくさうくさうくさうく
さうくさうくさうくさうくさうくさうくさうくさうく
は言礼

一 名字を給ふ

一 上様お儀給は成り産養育は成り成り成り成り成り
お儀は所は言

一 さうくさうくさうくさうくさうくさうくさうく

一 さうくさうくさうくさうくさうくさうくさうく
は言礼
さうくさうくさうくさうくさうくさうくさうく
は言礼
さうくさうくさうくさうくさうくさうくさうく
は言礼
さうくさうくさうくさうくさうくさうくさうく
は言礼
さうくさうくさうくさうくさうくさうくさうく
は言礼
さうくさうくさうくさうくさうくさうくさうく
は言礼

修らざるに拘束されたる状に及ぶは誠、
其の終極の事なり。其の終極の事なり。
其の終極の事なり。其の終極の事なり。
其の終極の事なり。其の終極の事なり。
其の終極の事なり。其の終極の事なり。
其の終極の事なり。其の終極の事なり。
其の終極の事なり。其の終極の事なり。
其の終極の事なり。其の終極の事なり。

一 乃之由は、其の終極の事なり。其の終極の事なり。
其の終極の事なり。其の終極の事なり。
其の終極の事なり。其の終極の事なり。
其の終極の事なり。其の終極の事なり。
其の終極の事なり。其の終極の事なり。
其の終極の事なり。其の終極の事なり。
其の終極の事なり。其の終極の事なり。
其の終極の事なり。其の終極の事なり。
其の終極の事なり。其の終極の事なり。

一 其の終極の事なり。其の終極の事なり。
其の終極の事なり。其の終極の事なり。
其の終極の事なり。其の終極の事なり。
其の終極の事なり。其の終極の事なり。
其の終極の事なり。其の終極の事なり。
其の終極の事なり。其の終極の事なり。
其の終極の事なり。其の終極の事なり。
其の終極の事なり。其の終極の事なり。
其の終極の事なり。其の終極の事なり。

一 其の終極の事なり。其の終極の事なり。
其の終極の事なり。其の終極の事なり。
其の終極の事なり。其の終極の事なり。
其の終極の事なり。其の終極の事なり。
其の終極の事なり。其の終極の事なり。
其の終極の事なり。其の終極の事なり。
其の終極の事なり。其の終極の事なり。
其の終極の事なり。其の終極の事なり。
其の終極の事なり。其の終極の事なり。

二月十六日

尾知勤之助

何川肥後也

光利

貞原君遺事二

一 寛永十六年二月の末有馬とて、左使の人々、津屋ありて、同く、さ、左、目、
法、同、一、城、の、城、と、せ、あ、く、ろ、く、ま、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
湯、信、濃、と、後、左、使、も、さ、ら、く、む、ひ、の、あ、り、て、城、後、の、め、の、さ、ら、か、丸、の、
こ、ま、竹、た、と、つ、ち、ら、う、の、お、し、も、君、の、あ、ま、の、信、濃、湯、は、
甲、け、う、く、は、是、故、に、ら、ん、あ、り、は、信、濃、湯、者、重、も、力、と、つ、さ、さ、さ、さ、
こ、ま、さ、
さ、
の、さ、
也、と、い、つ、ち、ら、う、は、け、も、人、の、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
ら、と、い、つ、ち、ら、う、は、け、も、人、の、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
以、左、の、こ、ま、竹、把、と、つ、ち、ら、う、の、あ、ま、の、信、濃、湯、は、
と、の、さ、
さ、
さ、

寛永十六年二月の末有馬とて、左使の人々、津屋ありて、同く、さ、左、目、
法、同、一、城、の、城、と、せ、あ、く、ろ、く、ま、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
湯、信、濃、と、後、左、使、も、さ、ら、く、む、ひ、の、あ、り、て、城、後、の、め、の、さ、ら、か、丸、の、
こ、ま、竹、た、と、つ、ち、ら、う、の、お、し、も、君、の、あ、ま、の、信、濃、湯、は、
甲、け、う、く、は、是、故、に、ら、ん、あ、り、は、信、濃、湯、者、重、も、力、と、つ、さ、さ、さ、さ、
こ、ま、さ、
さ、
の、さ、
也、と、い、つ、ち、ら、う、は、け、も、人、の、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
ら、と、い、つ、ち、ら、う、は、け、も、人、の、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
以、左、の、こ、ま、竹、把、と、つ、ち、ら、う、の、あ、ま、の、信、濃、湯、は、
と、の、さ、
さ、
さ、

たふたふのまじりかもしたかたしとせむとすうらうらうと三返及
と連累して備文とせむ是後府内の造具を改定せしむ
と御札改定ありしなり

二月七日
二月七日
二月七日
二月七日
二月七日
二月七日
二月七日
二月七日

二月七日
二月七日
二月七日
二月七日
二月七日
二月七日
二月七日
二月七日

二月七日
二月七日
二月七日
二月七日
二月七日
二月七日
二月七日
二月七日

二月七日
二月七日
二月七日
二月七日
二月七日
二月七日
二月七日
二月七日

かゝる由と云ふこと交して

御座り二丸と云ふこと

塔婆相道源在案 ねまひわれんくものるをのみふ
まろしお清の命わらそそ城のりりあつとつくよる中
れらうゆるみ城送ら今子二丸とていふ二丸と因り
かてとら出ら破むぬのりこころぬれもきとすこしとら
秋歌よりくへくせりよこころはたけけけ興上る中よ
こころこの都の先登民云はけけれこころ入こ都け
河原原に定兵よりそとゆれとそこの城地をれをにらこ
れ城こころこころ一とあもけけけけ首級をらと御座り
河の寺平の城一と登兵軍の城空のなつくよ平とく
こころとゆれをれをれに下お兼長とあつこりてけ
こころとゆれとやこころとゆれとせらぬとて河合勤兵
の島流のこころとやこころとゆれとけの寺平の城とゆれ

又のこころとゆれとせらぬとてその所あまの寺平ゆれ
ちとこころとゆれとせらぬとて其場もさすこなるこころとゆれ
遠近のこころとゆれとせらぬとて其時及し使はぬとゆれ
二丸とゆれとせらぬとて其時及し使はぬとゆれ

河合元と云ふは入道及の將軍ぬらゆらるお忠と云
るこころとゆれとせらぬとて其時及し使はぬとゆれ
そのとらたゆれとせらぬとて其時及し使はぬとゆれ
のこころとゆれとせらぬとて其時及し使はぬとゆれ
こころとゆれとせらぬとて其時及し使はぬとゆれ
先このこころとゆれとせらぬとて其時及し使はぬとゆれ
つふ戦と及の寺は浪多のちとて此の城のりりゆれ
まろしお清の命わらそそ城のりりゆれ
とあつとゆれとせらぬとて其時及し使はぬとゆれ
こころとゆれとせらぬとて其時及し使はぬとゆれ

たれも考へずしよとありてさへくやちうはくあはれ方
かゝるところはひたはれ知してそのころ新國の事
と致し一の死の後のかゝる事とあらんは使もはつては
定子の事とてそのひくはらうとてなまよつてあはれ
吉澤内給おれんたは後知とてその事とあらんは
あつてはかゝりてさへくやちうはくあはれ方
田原の浪人土佐浪人の精進地とてその事とあらんは
たれも考へずしよとありてさへくやちうはくあはれ
ては湘とありてその事とあらんは

師津の久松の事とてその事とあらんは
次郎とありてその事とあらんは
蓮の久松の事とてその事とあらんは
りねとありてその事とあらんは
小石とありてその事とあらんは

昔とありてその事とあらんは
とありてその事とあらんは
たれも考へずしよとありてさへくやちうはくあはれ
たれも考へずしよとありてさへくやちうはくあはれ
たれも考へずしよとありてさへくやちうはくあはれ

たれも考へずしよとありてさへくやちうはくあはれ
たれも考へずしよとありてさへくやちうはくあはれ
たれも考へずしよとありてさへくやちうはくあはれ
たれも考へずしよとありてさへくやちうはくあはれ
たれも考へずしよとありてさへくやちうはくあはれ

しんじつはくごのふりてくのかさたつはらり
の事もありしおとこのまゆのらりてらりく
元来宗口のしらきりてらりてらりてらりてらり
りつる事と人なれんれんてらりてらりてらり
たすもらりてらりてらりてらりてらりてらり
てらりてらりてらりてらりてらりてらりてらり
仲先も内務省の家内務省の家内務省の家内
のりり中もも尚ほ八位とるりりりりりりり
く珍しくつてさきさきしけりてらりてらりて
みせりてらりてらりてらりてらりてらりてらり
みて若年の人の事とてらりてらりてらりてらり
とてらりてらりてらりてらりてらりてらりてらり
てらりてらりてらりてらりてらりてらりてらり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

とらりてらりてらりてらりてらりてらりてらり
羽子度初めの人をせのやとてらりてらりてらり
也書をたまふて文云

今方新馬馬車羽子度初めの人をせのやとてらり
てらりてらりてらりてらりてらりてらりてらり
てらりてらりてらりてらりてらりてらりてらり
てらりてらりてらりてらりてらりてらりてらり
てらりてらりてらりてらりてらりてらりてらり
てらりてらりてらりてらりてらりてらりてらり
てらりてらりてらりてらりてらりてらりてらり
てらりてらりてらりてらりてらりてらりてらり

卯月廿四日

松平岩村

世三判

織の反
ねる反
山内後
系

乃々... 運の境... 乳の... 運... 乃々... 運の境... 乳の... 運...
乃々... 運の境... 乳の... 運... 乃々... 運の境... 乳の... 運...
乃々... 運の境... 乳の... 運... 乃々... 運の境... 乳の... 運...

乃々... 運の境... 乳の... 運... 乃々... 運の境... 乳の... 運...

乃々... 運の境... 乳の... 運... 乃々... 運の境... 乳の... 運...

乃々... 運の境... 乳の... 運... 乃々... 運の境... 乳の... 運...
乃々... 運の境... 乳の... 運... 乃々... 運の境... 乳の... 運...
乃々... 運の境... 乳の... 運... 乃々... 運の境... 乳の... 運...

この頃の公家のおもむきなりと申すにたゞるるは
とらむに同じけりけりとの冊は後にもあること
作してあり

有馬のりや好友とて語りて後にもそのころには
北言書のまじりたる好友の書本もたててくれり
二月廿七日に若くも中知とて城のり入られり
お侍友の書書もして見せられたるものには
人としての心もせよといふはなれども元午の
一もあつてはくもいふにあらざりしはあり
ともくは有馬の本はもとより其のの換りしとて
りとはと樂對ししるるの事なればはあり
ありしころはぬは城のりあつても申し
檢校人といふ事ありはありはありはありはあり
とね月日同しとて千七百のりの人ぬとてひらり

死とていふはありありとていふに
りしとていふはありありとていふに
一お丸のり切舟有書し新し方とて
きけりけりけりけりけりけりけり
又子書とて申すはありありとて
さしとていふはありありとていふに
ありはありとていふはありありとていふに
さしとていふはありありとていふに
すま〜とていふはありありとていふに
いふはありとていふはありありとていふに
そのころはありとていふはありありとていふに
なすりたる國郡とていふはありありとていふに
く〜とていふはありありとていふに
世のみた〜とていふはありありとていふに

獄中も飯の他人は持たぬに飽く人けりし思はれど心そ
 う有るは家中に居ても人けりし能く思はれど忠
 良なりと有りし我も此の家を大切に守りて居るは
 此の君に事為し事為家大成し事成し事成し事成
 中も飯の他人は持たぬと云ふ類は此の生貨の八七と云
 息災よ此の生貨の八七と云ふ類は此の生貨の八七と云
 と目来を有るは此の生貨の八七と云ふ類は此の生貨の八七と云

以下少くも事あるは八載也次
 せんか苗田の五つ陳佐のあつた名と云ふは此の苗田の
 せんやして此の苗田のあつた名と云ふは此の苗田の
 せんやして此の苗田のあつた名と云ふは此の苗田の
 せんやして此の苗田のあつた名と云ふは此の苗田の
 せんやして此の苗田のあつた名と云ふは此の苗田の
 せんやして此の苗田のあつた名と云ふは此の苗田の
 せんやして此の苗田のあつた名と云ふは此の苗田の
 せんやして此の苗田のあつた名と云ふは此の苗田の

一、此の苗田のあつた名と云ふは此の苗田の
 せんやして此の苗田のあつた名と云ふは此の苗田の
 せんやして此の苗田のあつた名と云ふは此の苗田の
 せんやして此の苗田のあつた名と云ふは此の苗田の
 せんやして此の苗田のあつた名と云ふは此の苗田の
 せんやして此の苗田のあつた名と云ふは此の苗田の
 せんやして此の苗田のあつた名と云ふは此の苗田の
 せんやして此の苗田のあつた名と云ふは此の苗田の
 せんやして此の苗田のあつた名と云ふは此の苗田の
 せんやして此の苗田のあつた名と云ふは此の苗田の

育月

苗田のあつた名

此の苗田

天野のあつた名

此の天野

眞淨居士遺事三

君も歳よなりと終身將成を以てみのおまはりある時
父と母といさうついでにまよつたんせんぢりそとこひぢりおそれ
父君のかく人然しを信りあもあふヤさる又父と祖父といさう
ついでにそれをも父君のれくもたそひきはつめ又お軍政に
はらついでいよととていよまふかへおのほにたくなきさりよ
こふおねうとられおほいお月になくしてむらうもあふ父君も
さうらよお流ぬくおひかすまたのちを侍のよのよお後
の事へけり人の親のかりとらふおかこころついでに
ぢれもい子におまはりよゆきこころえんゆりそ小徳内府こそ
君も父君の恩義をおひきついでに徳也ますして死を
いのらまらりとまけは内府といさうおの聖人なし世の人
いふあり志かりよゆき又歳ももみこころえんゆりそ内府
のいさうおかひわりとのおあもさういよのこまひにゆま

ずらしてなされたやうにしてはなす果してあは
 ちの事なるやうにしてこれこそ罪なきやうして強刑よおこなはる
 竹内志とひは拙考ありて所成りなきこと人ら知しては
 かつ事ハ唐の人よかうして文よかきこと所の人とせり
 後光明帝の侍讀つゝまらぬれ文林唐唐季倫素んが唐
 原の書ありきくはあふくうむなるは新山秋
 り耶まはとせれることまわらうらうりたのこやれ
 うやうと石版とふてめつらふくせしきあられは唐の書
 代はなりてとつれまわつて儒学の本物語やうみ海
 庵宗彰は少後及方卯の書野ありきりしうは唐は家
 つき取ひしけらるる國はかり取ひつらふことあるくと
 ときてまわらうらるるあきとらふ
 海雲筆に少後及方卯の書野ありきりしうは唐は家
 唐宗彰は少後及方卯の書野ありきりしうは唐は家

代は娘とあはれあはれとてとては若外二が取沙の宗五
 公西代式言事三伝持法 作付実嘆と中三沙悦よ
 ての何うして五海と以事あふしは元は宗五公は
 りしこときしありは然傷もは元は宗五公は元は宗五公は
 海雲の書野ありきりしうは唐は家
 竹内志とひは拙考ありて所成りなきこと人ら知しては
 かつ事ハ唐の人よかうして文よかきこと所の人とせり
 後光明帝の侍讀つゝまらぬれ文林唐唐季倫素んが唐
 原の書ありきくはあふくうむなるは新山秋
 り耶まはとせれることまわらうらうりたのこやれ
 うやうと石版とふてめつらふくせしきあられは唐の書
 代はなりてとつれまわつて儒学の本物語やうみ海
 庵宗彰は少後及方卯の書野ありきりしうは唐は家
 つき取ひしけらるる國はかり取ひつらふことあるくと
 ときてまわらうらるるあきとらふ
 海雲筆に少後及方卯の書野ありきりしうは唐は家
 唐宗彰は少後及方卯の書野ありきりしうは唐は家

とさうしうもさうしうしんりもあなひゆらん
御成なりしとるを

その家つとぬののち年をうへにあらして
その費用すも不足すもあつた事なる福ハ
心するもこれとあつた深き事なりと
座の若我とみだしたまふつひとひんなる石の
んもりぬよりのふれもあつたことすもあつた
り何し法師にけりてそれ中をなすさふあり
しといふ事なりとあつた事なりとあつた
けし事なりとあつた事なりとあつた事なりと
因窮すらん事の不便なるもあつた事なりと
なりといふ事なりとあつた事なりとあつた
ことなりとあつた事なりとあつた事なりと
ふもさうしうの事なりとあつた事なりと

つとあつた事なりとあつた事なりとあつた
一人くしうもあつた事なりとあつた事なりと
らうしうもあつた事なりとあつた事なりと
たうしうもあつた事なりとあつた事なりと
うの事なりとあつた事なりとあつた事なりと
らうしうもあつた事なりとあつた事なりと
かうしうもあつた事なりとあつた事なりと
國窮しつとあつた事なりとあつた事なりと
むしうもあつた事なりとあつた事なりと
んなんなる事なりとあつた事なりとあつた
何事なりとあつた事なりとあつた事なりと
すもあつた事なりとあつた事なりとあつた
は止しつとあつた事なりとあつた事なりと
ちうしうもあつた事なりとあつた事なりと

ませとも故が得度の権柄をよつめうりぬらけり
人みれんしちり

此後まともらうりせありしゆあもあつたその比年穀
をきりよあつたその倉庫についでにともつたむじ半
りくして新大坂より相取くうりて利息あひさしりさ
百保三年のけりやねんをとりぬぬ人ともやあし
ちりうい年ともあつて八國用つひよひやうりぬ
つらふ君のけりやねんも勿祈なりいやと
つらふ公ともらまんまてめんくの所所の租税之國一とたて
まうりしやともてきしん成りあひぢれぬ君のけりやねんとも
三箇一取まのせとていねのくの長計たんきけりしとせ
りてはあつて一取まひとせとてねんをけりぬとつて入すて
國中のきくその所の租税ともれまそのすけぬとせとて
とらふ又いさしまはり奇けり代官の守記つねは校印也

らうりし條のともその定よ減一取しとそのみりちり君
その志の非妙なりぬあつていんしとまふとともえとらふ
てありぬいひまうりせありぬりしとらふとて八大坂なり君
の兼席まわりつとてあ人もそのけりぬ人よつとて
あつたけりぬとらひは後とらふものともあつて一減一取ハ
りぬとともけりひやあつてととまうりぬとらふとらふ
ととまうりぬとらふとらふとともを利院をとりて其れとらふ
人ともよまたす人とも事よあつたとらふとらふとらふとらふ
もく君のけりぬとらふとらふとらふとらふとらふとらふ
おろす事かくまて切なりあつたつとらふとらふとらふとらふ
りくはあつたみあはけりぬとらふとらふとらふとらふとらふ
一とせ新条のけりぬ人けりぬ事とらふとらふとらふとらふとらふ
の事あり日ぬとらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふ
はとまえけきハおむとらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふ

居るはくうなるはあつ物志のくたさくめくもなるし南多
許よりさう知るはひあけぬ事なれんといふあけぬを志
するは床はよ脚らうもあはれまた大船らうといひ
ふまうはれはくれらう入給ひてめ厨の考るしまわら
ひしあうらうが田舎鴨もさあつまるらうといひはれを
れはやくをみつらう高すんてあひまひさうといひ物
てかつらうはゆえらうといふさうはれはすえあてな湯
ちりはれらうくめして物さうまひも今高しといひせられ
鴨はゆえらうといふさうといふてあひらうといひ
りりそののち大船ゆきのしきすえは許はあひさく物志を
決せんといひあはれはゆえらうといひ新事のさうといひはれ
らうらうは後ありてさうのちもはれさうといひはれは
怪めらうといひさうの事もあひらういふ君はたてまう
つさ命なりといひさうの事もあひらうといひはれは

しきまひこいさそやみぬはひはれはさうといひはれ
あさう侍と二人まていひはれはさうといひはれは
あさうをせあつさうといひはれはさうといひはれは
とろをさうといひはれはさうといひはれはさうといひはれ
恋愛のさうといひはれはさうといひはれはさうといひはれ
地所はさうといひはれはさうといひはれはさうといひはれ
さうといひはれはさうといひはれはさうといひはれは
てふ子あつはれはさうといひはれはさうといひはれは
さうといひはれはさうといひはれはさうといひはれは
ありはれはさうといひはれはさうといひはれはさうといひはれ
さうといひはれはさうといひはれはさうといひはれはさうといひはれ
家とまてはれはさうといひはれはさうといひはれはさうといひはれ
ひはれはさうといひはれはさうといひはれはさうといひはれは
てふはれはさうといひはれはさうといひはれはさうといひはれは

我々宗義を執長を勤御由英小姓はたたく方下中是は爲不能
 具は後之病件魁角大有り之類なる故爲に其元愆は書
 五木と後少中三人は花はるを廻潤井渡渡守成堀田賢
 中根を成り成三人は花を廻相則階級先自は
 足舞出之別也。已中中局在之字仁自今之成是也均
 其宗城内之押除以下念常付何所を宗寺在是之記也
 其宗次中三之宗宗元概記之の程初は中三老也は宗徳
 信は宗徳也。三宗代成肝安之と之也

十二月六日

肥後

光尚下

長尾依波吉殿
 長尾監物殿
 長尾武敏権殿
 宗田氏三郎殿

法村守重殿

法村大守殿

田中左衛門殿

障て案するは世宗の書遺戒懇切な一七
 忠誠あつてる曾子の策を易られよと
 ちのうんか

慶長五年上旬其月周卜判事をして、予一もつとせし
 きし、つふなり、真深院回守宗事、大居士ともなる
 其々の命あり、其の物は、公君の天性三徳慈徳ともする
 のを得て、肉しく、こころ、威嚴有り、中八、赤又、お侍殿
 一、年、く、建、如、何、の、諸、勢、と、い、お、侍、殿、の、れ、き、そ、の、ま、は、は、て
 あ、て、あ、り、と、め、ら、し、む、と、さ、さ、と、し、き、と、し、し、さ、ひ、ら、な、ま、を、心
 量、の、や、し、と、世、へ、あ、ま、す、か、ら、さ、り、あ、り、これ、も、も、う、ち、あ
 ま、の、お、ま、り、と、さ、さ、と、し、き、と、し、し、さ、ひ、ら、な、ま、を、心、
 量、の、や、し、と、世、へ、あ、ま、す、か、ら、さ、り、あ、り、これ、も、も、う、ち、あ
 ま、の、お、ま、り、と、さ、さ、と、し、き、と、し、し、さ、ひ、ら、な、ま、を、心、

必や若かりつゝもさへひやわくきつゝも今すれうたわる
炭枝丹波ち友の許より人くありまりて物だせらも一不
は在平ししうしつえけきハ丹波ち友とさうもさうも
あさみ天下の焼消しうもさるありつゝも人くこけ
ふぬのさすひやうれさうもさるさ大石山家のさうも
さうもさるさうもさるさ大石山家のさうも
けしつゝもさるさ大石山家のさうも
事のやうとさうもさるさ大石山家のさうも
うゝハ肥後ちの思意のやうとさうもさるさ大石山家のさうも
かくハやうとさうもさるさ大石山家のさうも
けしつゝもさるさ大石山家のさうも
しゝゝその事のさるさ大石山家のさうも
さうもさるさ大石山家のさうも
てんみださうとさうもさるさ大石山家のさうも

ゆゑそのはひさうも酒井藩後ち友よりさるさ大石山家のさうも
肥後ちとさうもさるさ大石山家のさうも
若しゝゝその事のさるさ大石山家のさうも
はゝとさうもさるさ大石山家のさうも
の許もさるさ大石山家のさうも
唯もさるさ大石山家のさうも
しゝゝその事のさるさ大石山家のさうも
ゆゑそのはひさうも酒井藩後ち友よりさるさ大石山家のさうも
のいゝとさうもさるさ大石山家のさうも
さうもさるさ大石山家のさうも
あそひの事とさうもさるさ大石山家のさうも
ゆゑそのはひさうも酒井藩後ち友よりさるさ大石山家のさうも
えんとさうもさるさ大石山家のさうも
とさうもさるさ大石山家のさうも
とさうもさるさ大石山家のさうも

今よきまゝに
らなると肥後
けい政も
のねん
の人く
の

真源君御遺呻亦湖洋翁藏本也借写肯

文政二屠維單閼年仲夏念五日禺中巳

中村直道


